

ATEM Newsletter



全国大会特集号

October, 2015

発行 映画英語教育学会
住所 〒169-0075
東京都新宿区高田馬場
4-3-12アルク高田馬場4F
TEL 03-3365-0182
FAX 03-3360-6364
E-mail office@atem.org
郵便振替 00820-3-1477

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

■会長挨拶

Let Us Add More Feathers To Our Academic Caps!



映画英語教育学会 会長
倉田 誠 (京都外国語大学)
ATEM President
Makoto KURATA
(Kyoto University of
Foreign Studies)

(写真：本年度全国大会にて)

Ladies and Gentlemen,

The 21st ATEM National Convention took place on August 7th at Kyoto Women's University under the theme of "Revisiting English Learning Through Media," and I would like to give you the gist of the pedagogical plans that were successfully carried out in Kyoto at the height of summer.

I launched into my brief welcoming oration and thanked all the presenters and participants for helping organize this year's national convention. My humble words were directly followed by motivating congratulatory speeches from Dr. Donghan Lee (the STEM president) and Dr. Tadayuki Hayashi (the president of Kyoto Women's University). We moved on to take part in a thought-provoking array of presentations, symposiums, poster sessions, and publishers' exhibitions. All the academic and educational speeches culminated in the special lecture delivered by Professor Takahiro Ono (Kyoto University of Foreign Studies), who coped convincingly with the challenging topic of "Bi-language Simultaneous Learning - English and Language X." Professor Ono, as you may know well, is one of the leading transformational grammarians in Japan, and he is also an ardent believer in using movies to explain a variety of complex linguistic phenomena. I would like to take this opportunity to thank

Professor Ono, the other presenters, and all the other participants for creating such a wonderful academic atmosphere throughout the conference.

In addition to the conference summary, I would concurrently like to provide you with information about a couple of exhilarating projects, which you might as well carry in your thoughts as you consider new ways to bring out the best in our organization.

(1) We will be holding our 22nd National Convention at Waseda University on July 9th, 2016, and so you all are kindly requested to consider making interesting presentations at this grand conference organized in the hub of Japan next year.

(2) The 20th STEM International Conference will be put back to September in 2016. Our Korean partner organization will host a three-day collaborative conference with ATEM and ICEM (International Council for Educational Media). "The 2016 STEM-ATEM-ICEM International Conference" is its tentative but engaging title. I would like to encourage many of you to participate in this major global media conference (See page 7 for more information).

(3) We are now getting ready to offer a research grant of 50,000 yen to two ATEM members every year. The applicants for the grant should satisfy both of the following conditions. (a) The applicants have to prove that they do not receive any research funds from their affiliations or any other organizations. (b) The applicants have to show that their membership fees are fully paid up. Our eligible members could then develop application forms and research prospectuses, and submit them to the research grant committee, which will come up with their final decision. The two chosen grant recipients should make presentations in English either at the ATEM National Convention or at the STEM International Conference. The recipients are also expected to contribute their academic papers either to the ATEM Journal or to the STEM Journal (Details will be made available on our homepage soon).

These three exciting projects coupled with our daily research activities will undoubtedly lead us to add more feathers to our academic caps. Thank you.

映画英語教育学会(ATEM)第21回全国大会
The 21st ATEM National Convention
(大会テーマ：映画で英語学習を観なおす)
Theme: Revisiting English Learning through Media
平成27年8月7日 会場：京都女子大学
on August 7th 2015, at Kyoto Women's University
大会報告

■特別講演

Bi-language Simultaneous Learning - English and Language X (BSL-EX)

By Professor Takahiro ONO
 (Kyoto University of Foreign Studies)

演題は日本語で表すと「2言語同時学習 - 英語と X 語」となる。X は変数であり、EX とは「英語と英語以外の外国語」を指す。日本屈指の生成文法の研究者である小野隆啓先生の2言語同時学習という発想はノーム・チョムスキー博士の「言語普遍性」という考えに基づいており、英語の教員と他言語の教員が同時に教壇に立ち、両言語を対照言語学的に扱うという斬新なアプローチである。

京都外国語大学では E である英語と X であるフランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、イタリア語という全 6 種類の EX クラスを開講している。小野先生はご自身の「英語と仏語(EF)の同時学習」の演繹の授業の一端を披露された。英仏語の音声、文法、語彙、表現、意味、文化を基軸とし、*Harry Potter and the Philosopher's Stone* (01) と *Harry Potter and the Chamber of Secrets* (02) の英仏版で類似点と相違点を実証するという手法である。



今回実証された英仏の現象は(1)自己紹介の方法、(2)must の主観性と have to の客観性、(3)wh 移動、(4)

形容詞の語順、(5)心的距離を表す that、(6)二重接語化、(6) pigeon 等の語彙の文化的相違であった。

小野先生の言語と文化への鋭い切り口に参加者は称賛の意を禁じ得なかった。(倉田誠)

■STEM特別発表

What do you Want to Teach with Movies or Dramas?: A Review of Formulaicity and Memory

By Professor Jawon LEE (Kookmin University)

今回の STEM (The Society for Teaching English through Media) からの発表者は、STEM 元会長の Jawon Lee 教授 (Kookmin University) である。演題は日本語にすると「映画やドラマを通して教えたこととは何か一定型化と記憶についての総説」である。

先生は最初に「今日は冗談を交えずにやりまます。」と、持ち前の明るさ、ユーモアの



センスで参加者を引き付けながら発表を開始。我々はずいぶん EFL の現場で映画やドラマを使いたいと思うのか、という問いに対する理論的背景から始まり、発表時間の 30 分があつという間に過ぎた。

発表後は、司会者からの Q&A への移行を妨げるように「質問はお断りします。」と、ここでも冗談で会場を沸かせた。実際には数名から質問、コメントが投げられ、それらには丁寧に回答され、会場は和気あいあいとした中、参加者は有意義な発表を聞くことができた。概要は以下のとおりである。

- (1) 言語学習における定形表現に関連する先行研究の紹介、およびその定義と範囲の解説
- (2) 心理言語学の中の記憶、そして記憶と言語発達の関係にまつわる議論の説明
- (3) これらの理論背景を踏まえた映画やドラマを使用した教授法の提示

なお、今回も STEM から多くの参加者をお連れ下さったことに感謝の意を表したい。

(塚越博史)

■総会

大会当日 13時 10分より、今年度の総会が開催された。まず倉田会長より 2 期目就任の挨拶と、専務理事および支部代表理事の紹介が行われた（詳細は P5 参照）。

写真上：左から、倉田会長、小林、吉田、高瀬支部代表理事
写真下：左から、塚越、真下、藤枝、井村、松田、延原、新田専務理事



さらには 2016 年度 ATEM 全国大会のお知らせ (7/9、於：早稲田大学)、そして姉妹学会 STEM と ICEM (International Council for Educational Media) による国際大会開催概要と ATEM としての方針説明があった。

続いて、新田理事より各支部・各委員会報告、および前年度会計報告があり、会計報告については承認された。

最後に第 4 回優秀論文賞の授賞式が行われ、東京都市大学の杉浦綾子先生に賞状と副賞が授与された（右記参照）。今回の総会は時間不足で授賞式が駆け足になってしまい、司会としてこの場を借りお詫び申し上げたい。（新田晴彦）

優秀論文賞 受賞のことば

「三人称代名詞での指示が失礼とされる理由の検証」

杉浦綾子

このたび優秀論文賞を頂きましたことは、望外の喜びです。

これもひとえに、お忙しい中拙作を査読し、大変貴重なご指摘やアドバイスをくださいました先生方のお蔭に他なりません。この場をお借りして、深く御礼を申し上げます。また、映像媒体と英語教育に軸足を置くこと以外には特に制約を設けず、学際的な研究を奨励するという、本学会の自由な環境がなければ、そもそも論文を投稿することもできませんでした。論文発表の場を提供してくださった、会長の倉田先生、紀要編集委員会委員長の塚越先生をはじめ、選考に携わられた先生方に深く御礼申し上げます。

授賞式にて（右は倉田会長）

長年通訳・翻訳者としての実務に従事する中で、特に社会人として使用する英語を、社会言語学、語用論などの観点から分析し、英語教育に反映させ



る必要性を感じております。これを機に、そのような観点から英語教育に真に貢献できるよう、これまで以上に精進していく所存です。

このたびは本当にどうもありがとうございました。

■全国大会スナップ



↑受付



←京都女子大学の林学長
↓司会中の諸江中部支部長



←懇親会にて。
Love me Tender の替え歌を熱唱する塚越副会長と Lee 先生

大会翌日は STEM との国際交流会が開催された
写真下：交流会での集合写真(P7 参照)

↓くつろぐ Lee 会長



閉会挨拶をする、大会担当の藤枝理事→



↑京都女子大学箏曲部による琴演奏(懇親会)



■シンポジウムA

「映画の Goofs と Trivia を活用した英語教育」

九州支部からのシンポジウムは、映画本編ではなくそこから派生した情報に着目し、3人のパネリストにより行なわれた。

まず、高瀬文広先生（福岡医療短期大学）により、映画の Goofs と Trivia、およびその種類について、また、それらの英語教育現場での活用効果について説明がなされた。



映画制作中に偶発的に発生するのが Goofs と呼ばれる、時代考証上の矛盾や編

集ミスといった間違いである。これは映画を視聴する際の様々な障害となり、時には誤った情報を通して視聴者が理解するという事態も起こりうる。本発表では、そのような、本編には本来不要な部分である Goofs に焦点を当て、これを英語学習に効果的に利用できないかと考え、教育の現場でアクティブ・ラーニングの一つにする方法を研究し、紹介した。また同時に、映画の本筋には直接関係ないと考えられる雑学的な情報、つまり Trivia も取り上げ、その教育的活用方法についても提案した。

具体的には、福田浩子先生（福岡大学）が、山下友子先生（九州大学）の作成内容を含むビデオクリップ化した映画の幾つかのシーンを用い、活用方法をクイズ形式で示した。多くの示唆に富むシンポジウムとなった。

（九州支部企画）

■シンポジウムB（英語）

The Representations of Gender and Sexuality in the History of Movies

支部発足以来、北海道支部は連続で全国大会の支部シンポジウムを開催している。4回目となる本年の企画は、映画の歴史におけるジェンダーとセクシュアリティ、そしてその教育的活用法をテーマとした。

道西智拓先生（札幌大谷高校）と和倉（旧姓：池田）恭子先生（あいの里東中学校）は、“School Caste and Masculinity”と題し、学生の人気度序列、いわゆる「学校カースト」問題を取り上げ、*Monsters University* (13) に登場するアメリカの典型的な学生間格差例を挙げながら、道徳教育への活用を目指したハンドアウト例を提示した。

斉藤巧弥氏（北海道大学・院生）は、“How Aliens are Gendered”と題して、戦う女性が主人公の『エイリアン』シリーズを用い、エイリアンに投影されるジェンダーの表象、そして登場人物たちが映し出すフェミニズムの移り変わりを分析、教育的な利用価値を視野に入れた解説を行なった。

“Fighting Women in Action Films”と題し実践発表を行なった、細木健太先生（札幌開成高校）は、語彙力強化の試

みとして、*Kill Bill* (03) や *The Hanger Games* (12) などの女性アクション



左から道西、和倉（池田）、斉藤、細木

ムービーを紹介する前と後の、女性へのイメージ調査をクラス内で実施。その変化と比較を報告した。

暴力的シーンを含む映画の授業内での扱いに関する指摘が出るなど、いくつか課題は残したものの、映画の教育的利用価値を広げる有意義な内容であった。

（北海道支部企画）

■シンポジウムC（英語）

Representations of Japan in American Film

東日本支部のシンポジウムは、アメリカ映画における日本の描写をテーマに行なわれた。

まず藤田久美子先生（白梅学園大学）が、百年前から現在までのハリウッド映画に見る、日本および日本人の特徴を時代ごとに概観した上で、『ブラック・レイン』(89)を紹介。この映画は大阪を舞台にした犯罪アクションであるが、日米二人の刑事の間の葛藤と和解こそが

テーマであることを、日本人刑事の描き方に焦点をあてて論じた。



左から日影、吉牟田、延原、藤田

延原みか子先生（東京都立産業技術高等専門学校）は『スター・ウォーズ』シリーズに見る日本文化、特に黒澤映画の影響を取り上げた。このSF大作の登場人物の生き方、思想、キャラクター設定などには、『隠し砦の三悪人』（58）、『姿三四郎』（43）との類似点が存在する。

日影尚之先生（麗澤大学）は、自分探し中のアメリカ人男女が日本に馴染みきれない姿をユーモラスに描いた『ロスト・イン・トランスレーション』（03）について、彼らの擬似的父・娘関係が、日本を「他者化」するオリエンタリズムを感じさせることを解説した。

吉牟田聡美先生（国際基督教大学）は最新作『ベイマックス』（14）について、日本文化の描写がステレオタイプではなく多面的であると指摘。例えば、表通りのみならず赤提灯のようなサブカルチャーもよく再現しており、緻密な調査を伺わせると述べた。（東日本支部企画）

■シンポジウムD（英語）

The Effectiveness of Employing Movie Script Data to Teach Grammar Usages: for a Better Understanding of Linguistic Phenomena

西日本支部では、日本語で「文法を教えるにあたっての映画台本の利用効果 一言語現象のよりよい理解のために」と題したシンポジウムを行った。パネリストは飯田泰弘氏（大阪大学・院生）、衛藤圭一先生（京都外国語大学）、横山仁視先生（京都女子大学）の3名だった。

飯田氏は疑問副詞と代名詞の境界線について(1) (2) (3)の用例を提示し特異な why と what の用法を論じた。

(1) A: I was watching *Titanic*.

B: Why / *How / *When / *Where *Titanic*?

(2) A: What do you care if I hook up?

B: Because then maybe you wouldn't be so cranky all the time. (*Super Natural*, Season1, Episode19, 2006)

(3) Why do/should you care if I hook up?

次に衛藤先生は迂言的助動詞表現 *be bound to* の用法について(4)(5)の用例を取り上げ、検証した。

(4) Once word gets out that this bomb has gone off, there's bound to be a certain amount of civil unrest. (24, Season 2, Episode 15, 2003)

(5) Conklin had these guys wound so tight they were bound to snap. (*The Bourne Supremacy*, 2004)

横山先生は談話辞 when it comes to A の用法を(6)(7)の用例を基にその類似表現の speaking of A と比較した。

(6) When it comes to the topic of obesity, many people are quick to point the finger at various foods and food companies. (*Super Size Me*, 2004)

(7) I know I'm a better lawyer when it comes to divorce. (*The War of the Roses*, 1989)



左から衛藤、横山、飯田

各発表者は、日本人英語学習者が間違いやすい語法を、映画の台詞に共起する実例とコーパスでの検索結果を活用すること

で、その構造とコミュニケーション上の効果を考える、西日本支部の特色を生かした興味深い内容であった。

（西日本支部企画）

【会長および理事】（任期：2015年～2018年総会）

会長：倉田 誠（京都外国語大学）

副会長：塚越 博史（北海道医療大学）

専務理事：

真下 富雄（(株)広真アド：事務局）

藤枝 善之（京都外国語大学・短期大学：大会担当）

井村 誠（大阪工業大学：国際交流担当）

塚越 博史（北海道医療大学：紀要担当）

松田 愛子（翻訳者：広報担当）

新田 晴彦（専修大学：会員管理担当、副事務局長）

延原 みか子（東京都立産業技術高等専門学校：ICT 担当）

支部代表理事：

北海道支部長 小林 敏彦（小樽商科大学）

東日本支部長 吉田 雅之（早稲田大学）

中部支部長 諸江 哲男（愛知産業大学）

西日本支部長 横山 仁視（京都女子大学）

九州支部長 高瀬 文広（福岡医療短期大学）

第22回全国大会
2016年7月9日(土)
於：早稲田大学

■研究発表一覧

第21回全国大会の研究発表は下記のとおりである。タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。発表者の敬称は略する。

【Session 1】

山口美知代 (京都府立大学)

ジャパニーズ・イングリッシュを楽しむ堤幸彦映画—

「英語がなんだ!」、『恋愛寫眞』、『銀幕版スシ王子!』

小林敏彦 (小樽商科大学・大学院)

英語をわかりやすく話すための口語英文法
(CEG) 10 類型の活用

IMURA Makoto (Osaka Institute of Technology),

YAMAMOTO Goro (Hiroshima University)

English on Screen: Learning Real English through
Erin Brockovich (Kinseido 2015)

SEO Jiyoung (Kookmin University)

Terminology is a Good Source for Drama Enjoyment
and Language Learning

【Session 2】

清水純子 (慶應義塾大学)

『枕草紙』 (The Pillow Book) —ピーター・グリーンナウ
エイによる日本文化のパロディ—

松井夏津紀 (Chulalongkorn University)

聞き手の反応を表す表現の"Right"—日本語の相づち「そ
うですね」との比較—

FUKUDA Eri (Chugoku Gakuen University),

HASHIMOTO Shinichi (The University of Electro-
Communications), OKAZAKI Hironobu (Akita

Prefectural University)

Rejuvenating Grammar Instruction through Narrative
Music Videos

IM Mijin (Kookmin University)

A Suggestion for a Three Step-approach for Activating
Long-term Memory Based on Constructing-a-storyline
Activities

【Session 3】

國友万裕 (同志社大学)

アメリカ映画と男同士の絆 (ゲイ、ロマンス、スラッ
シュ)

森永弘司 (同志社大学)

映画を使用したリーディング教材の開発

KARATSU Rie (University of Nagasaki)

Fostering Critical Intercultural Competence through
Films in CLIL Classes

RYU Dohyung (KookminUniversity)

Changing Input to Intake: A learner-centered, media-
based approach using films

【Session 4】

鈴木光代 (東京女子医科大学)、越智希美子 (松山大学)

英語での論理展開スキルの向上をめざして: 映像英語よ
り Complaint の Speech Act の分析を通して

BOLAND Carl (The Japan Center for Michigan
Universities)

Character Speech in the Movies: A Sound Design
Perspective

WERE Kevin (Kookmin University)

Why Are They Laughing?: Forms of Humor in the TV
Series Modern Family

【Session 5】

渡邊信 (麗澤大学)

アメリカ英語における too の特殊な用法について

JONES Graham (Ten Sentences),

STACK Martin (University of Shiga Prefecture)

Fantastic Mr. Fox, and Other Heroes

【Session 6】

角山照彦 (広島国際大学)

多様な習熟度に対応した映画教材の開発 —『パッチ・ア
ダムス』を活用した実例研究—

松本知子 (東海大学福岡短期大学)

仮定法と助動詞を通して話者の気持ちを読み取る—効果
的な指導法を求めて—

須田智之 (筑波大学附属駒場中・高等学校)

映画を英語授業に活用する —実技テストと発展的内容
の素材として—

【ポスターセッション】

近藤暁子 (兵庫教育大学)

映画を使用した指導による日本人学習者の英語学習に対
する態度への影響

岡崎弘信 (秋田県立大学)、新田晴彦 (専修大学)、

木戸和彦 (環太平洋大学)、橋本信一 (電気通信大学)、

福田衣里 (中国学園大学)

オリジナル学習支援プログラム「映画英語リスニング・
システム」のさらなる進化のために

大月敦子 (相模女子大学)

思考型英会話学習法の提案

松田愛子 (翻訳者)

会話で生きる映画の引用をドラマで学ぶ

田口雅子 (とわの森三愛高等学校)

高校生アスリートたちと共に学ぶ『インビクタス』

【賛助会員発表】

山本哲也 (センゲージラーニング株式会社)

DVD 教材『Working in Japan』

—日本で働く外国人へのインタビューから、自分の未来
や可能性を見つける—



■支部だより

[北海道支部]

◆第5回北海道支部大会は2016年1月10日(日)に、JR札幌駅西口から徒歩30秒のsapporo55ビル3階にある小樽商科大学札幌サテライト教室にて開催されます。朝から晩まで北海道独自の企画を含め11の研究発表を予定しております。道外からも倉田会長を始め5人の会員の方々に発表をいただきます。寒い季節ではありますが、熱気あふれる大会にするためにも多くの方々にお越しいただけますようよろしく申し上げます。温かいコーヒを用意してお待ちしております。(支部長:小林敏彦)

[東日本支部]

◆3月8日(日)「春季セミナー」では、本編開始前に支部長が露払い役として『ルパン三世:カリオストロの城』の英語版を用いた授業例を紹介しました。本編では日米合作映画『リトル・ニモ』の英語版(Little Nemo: Adventures in Slumberland)を見つつ、翻訳のあり方も考えました。

◆7月5日(日)の夏季例会では、嘉来純一氏が自作データベースを紹介、全国大会のシンポジウム担当者4名(本号P5参照)も研究発表しました。(支部長:吉田雅之)

[中部支部]

◆支部組織改選と支部研究報告書出版の準備を進めています。これらは10月24日(土)の支部総会に諮ります。また、引き続き会員の増加について努力しております。

◆今年度の研究大会は、10月24日(土)開催です。特別講演のほか、映画『ミッドナイト・イン・パリ』の授業導入についてを予定しています。(支部長:諸江哲男)

[西日本支部]

◆「第6回映画英語学ワークショップ」(西日本支部主催、京都外国語大学メビウス研究会共催)を6月27日(土)に京都外国語大学で開催しました。

◆「メビウスサマーセッション」(京都外国語大学メビウス研究会主催、西日本支部共催)を9月14日(月)~15日(火)に、あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)で開催しました。特別講演として渡邊信先生(東日本支部)をお招きしました。

◆第13回西日本支部大会を11月14日(土)に大阪工業大学サテライトキャンパス(うめきたナレッジセンター)で開催します。最新情報は支部HPで確認ください。

(支部長:横山仁視)

[九州支部]

◆本年9月13日(日)に、第17回九州支部大会を福岡医療短期大学に於いて開催しました。昨年同様の企画も実施し、参加者と会員の獲得を目指しました。

◆支部会員の研究支援、業績として、ミネルヴァ書房から「English Delight of Movie English and TOEIC」、金星堂からTOEIC関連のテキストを出版し、収入は会員の研究や活動費にあてています。

◆7月25日(土)、運営委員会と会員の情報交流会を開催し、相互の親睦を図りました。(支部長:高瀬文広)

■委員会だより

[国際交流]

◆5月15日(土)に天安(チョナン)市で開催された、姉妹学会のSTEM第19回国際大会にはATEMから13名が参加、6件の研究発表を行いました。

◆8月7日(金)の全国大会では、STEMから19名の参加を得、特別発表を含む5件の研究発表がありました。大会翌日は、Jeff Berglund先生(京都外国語大学)ご夫妻のお心遣いで、鴨川沿いにあるご自宅にお招きいただき、STEMの皆さんと川床(かわゆか)を楽しませていただきました。

◆来年度のSTEM国際大会(第20回記念大会)は、2016年9月23日(金)~25日(日)の3日間、ソウルの国民大学にて、ATEMとICEM(International Council for Educational Media)の共同開催の形で、大々的に行われる予定です。多数のご参加をお待ちしています。詳細は、後日ATEMウェブサイトのトップ右側メニュー「STEM大会発表 & 紀要投稿」に掲載します。(委員長:井村誠)

[広報]

◆延原みか子先生のICT理事就任に伴い、東日本支部担当委員は杉浦綾子先生が後任に選出されました。また、これまでは委員長が兼任してきましたが、北海道支部担当委員を別途立てることとなり、田口雅子先生が就任しました。

◆お忙しい中、今号にご寄稿くださいました皆様、ご協力ありがとうございました。(委員長:松田愛子)

[紀要編集]

◆第21号の紀要に論文をご投稿くださいました会員の皆様には、数々の玉稿をありがとうございました。現在、皆様の論文は査読段階です。結果のお知らせまで少しお待ちください。前号より皆様の論文を研究分野ごとに、論文カテゴリーごとに掲載しています。読みやすさ(検索しやすさ)はいかがでしょうか。掲載方法など含めてご意見を委員会までお寄せください。皆様と共に今後もよりよいジャーナルを作って参ります。(委員長:塚越博史)

[大会運営]

◆本年度の全国大会は、STEM会員を含む約130名の参加者を得、成功裏に終わりました。今回は、小野隆啓教授(京都外国語大学)による特別講演の他、STEM会員による特別発表、各支部による4つのシンポジウム、20の研究発表、5つのポスター発表があり、このうち約半数のセッションは英語による発表でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。詳細は本号をご覧ください。(委員長:藤枝善之)

[ICT]

◆このたび、新田晴彦先生に替わり新ICT担当担務理事に指名されました延原です。どうぞよろしくお願い申し上げます。なお新田先生は会員管理専務理事となりました。

◆ICT委員会では本部ホームページのバイリンガル化を徐々に進めております。また、大会案内はホームページのみならず「言語系学会連合」にも掲載されますので、両ウェブサイトをご確認ください。(委員長:延原みか子)

■決算報告

第21期 映画英語教育学会【決算報告書】

2014年4月1日～2015年3月31日

収入の部			支出の部		
前年度繰越		1,593,030	大会開催費	大会開催総費用	675,248
会員年会費	2013年度分@5,000 26	130,000	紀要発行費	紀要印刷費(抜刷り含む)	465,804
	2014年度分@5,000 237	1,185,000	ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費	52,920
	2014年度分@3,000 1	3,000	ホームページ関連費	ホームページ新規制作費を含む	534,236
	2015年度分@5,000 18	90,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
賛助会費	2014年度分@10,000 11	110,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	20,748
	2015年度分@10,000 1	10,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	127,423
大会参加費	会員@1,000 72	72,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
	非会員@2,000 12	24,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	158,000
大会懇親会費	@5,000 50	250,000	雑費	振込料他	8,813
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック	114,505	前期未払金		204,442
受取利息		155			
書籍送料		320			
小計		3,582,010	小計		2,507,634
				みずほ銀行	627,637
				郵便振替口座	319,336
				小口現金	127,403
				翌年度繰越金	1,074,376
合計		3,582,010	合計		3,582,010

※個人会員 354名・賛助会員 11社

2015年5月吉日 上記の通り相違ありません

会計監査 秋月 剛



ATEM Clapper Board

1) 第21回全国大会へご出展いただいた賛助会員は下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。(50音順)

記

近代映画社 金星堂 国際トラベル京都
シードラーニング 成美堂
センゲージラーニング ピアソン・ジャパン

2) 研究費を受給していないATEM会員のために、競争的資金「映画英語研究奨励金」(5万円)の導入が検討されています。詳細については後日通知します。

3) 全国大会等の受付にて、入会手続きができるようになりました。各種大会やワークショップでの会費お支払い手続きも可能となりました。

4) タレント活動もしている Jeff Berglund 先生(京都外国語大学)と英語講師・ラジオパーソナリティの佐藤弘樹先生に「特別顧問」に就任いただき、広告塔としても活躍いただくこととなりました。

(事務局)

<賛助会員一覧> (2015年8月7日現在)

株式会社朝日出版社
株式会社アルビス
株式会社金星堂
株式会社近代映画社
国際トラベル京都
シードラーニング株式会社
松柏社
株式会社成美堂
センゲージラーニング株式会社
チエル株式会社
ピアソン・ジャパン株式会社
広島工業大学学務部 MM 準備室

～編集後記～

◇今年の全国大会も、Newsletter 掲載用写真のほかに、ウェブサイト掲載用の会長挨拶の動画を委員会で収録しました。

◇今年も新田晴彦先生に掲載写真の撮影協力をいただきました。ありがとうございました。

◇来年度の全国大会開催日の関係から、次号は2016年3月に発行予定です。

[広報委員会] *松田愛子(北海道)、田口雅子(北海道)、杉浦綾子(東日本)、井土康仁(中部)、衛藤圭一(西日本)、鶴田知嘉香(九州) *委員長